

編集後記

「まん延防止等重点措置」が解除された初日、10月1日の編集委員会終了後、天文館パトロールに出掛けました。人出は多くはありませんでしたが、ほとんどのお店が再開して明るさを取り戻しており、最初に池田バーに寄って、マティーニ、マンハッタンと立て続けに久しぶりのカクテルを楽しみました。

誌上ギャラリーは、碧い不知火海が綺麗な平田宗興先生の「スペイン村」です。湯の児にもスペイン村があるとは知りませんでした。

論説と話題は2題です。九州学校保健学会では、コロナ禍で様々な影響がでている子供たちが健やかに成長できるように、学校保健活動の充実が求められています。また、全国医師会勤務医部会連絡協議会は、専門医制度のあり方と研修医を含めた若手医師と医師会についてのシンポジウムの報告です。

学術は、いまきいれ総合病院と鹿児島生協病院からの2題です。貴重な症例報告をありがとうございました。

医師会病院だよりは、緩和ケア科と放射線室からです。放射線室からの報告で、マグネットネイルという鉄粉入りのネイルの存在を知りました。酸化鉄を含んだ色素を用いた刺青をした人がMRI撮影をして火傷を発症する可能性があることは知っていたのですが、ネイルも同じですね。また、増毛パウダーや白毛隠しにも酸化鉄が含まれたものがあるようで、パウダーが飛び散って撮影装置に付着して故障するという被害もあったそうです。

今回の古庄弘典先生の切手が語る医学にあるストレスの発見者シェイエ・ヤーノシュ（ドイツ語名ハンス・セリエ）は、オーストリアハンガリー二重帝国の首都ウィーン生まれで、物理学分野で使われていた「物体の外側から圧力をかけられたことで歪みが生じた状態」を意味する「ストレス」を用いて、外から不愉快な刺激（ストレッサー）

を受けると身体に影響を引き起こすこと（ストレス反応）を提唱しました。彼は研究者として偉大なだけでなく、人間としても素晴らしい人だったようで、祖国ハンガリーの田舎町にある高校の生物学部から届いた手紙にも丁寧に返事を出し、彼らと文通をして交流もしたそうです。その交流をした生徒の一人が今回のmRNAワクチン開発でノーベル賞受賞に最も近い研究者として注目されるカタリン・カリコ博士です。シェイエ・ヤーノシュから贈られた著書「生命とストレス」に貫かれた「誰かの頭で考え、誰かの目で見ることではなく、自分自身の頭と目で先入観なしに進んでいけ」という考え方が、彼女の苦難の連続であった40年以上にわたるmRNA研究を支えてきたようです。

小田原良治先生の「孫からのてがみ」を読みながら、孫がいる生活の楽しさを感じました。今年1月に結婚した一人娘、年内には入籍をしようと言っている長男の家庭に孫が生まれて「孫からのてがみ」が到着する日が今から楽しみです。

リレー随筆は、奄美中央病院の平元良英先生の楽しみである「医療もの」の映画・ドラマのお話でした。私が一番大好きな医者が主人公の映画は巨匠デヴィット・リン監督の「ドクトルジバコ」、好きなドラマはWOWOWで現在も放映中の「グレイズ・アナトミー」です。

私が会頭として来年4月23日(土)、24日(日)に鹿児島市のかごしま県民交流センターで開催する第38回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会のテーマは「こんな時代だから楽しい皮膚科」です。本当は「だ」の後に「った」を挿入して「こんな時代だったから」と過去形になればと思っていましたが、残念ながらwithコロナは続きそうです。ワクチンの2回接種を済ませていたとしてもこれまでと同様に感染予防に努めながら、日々是好日、楽しく過ごして行きましょう。

(編集委員 島田 辰彦)